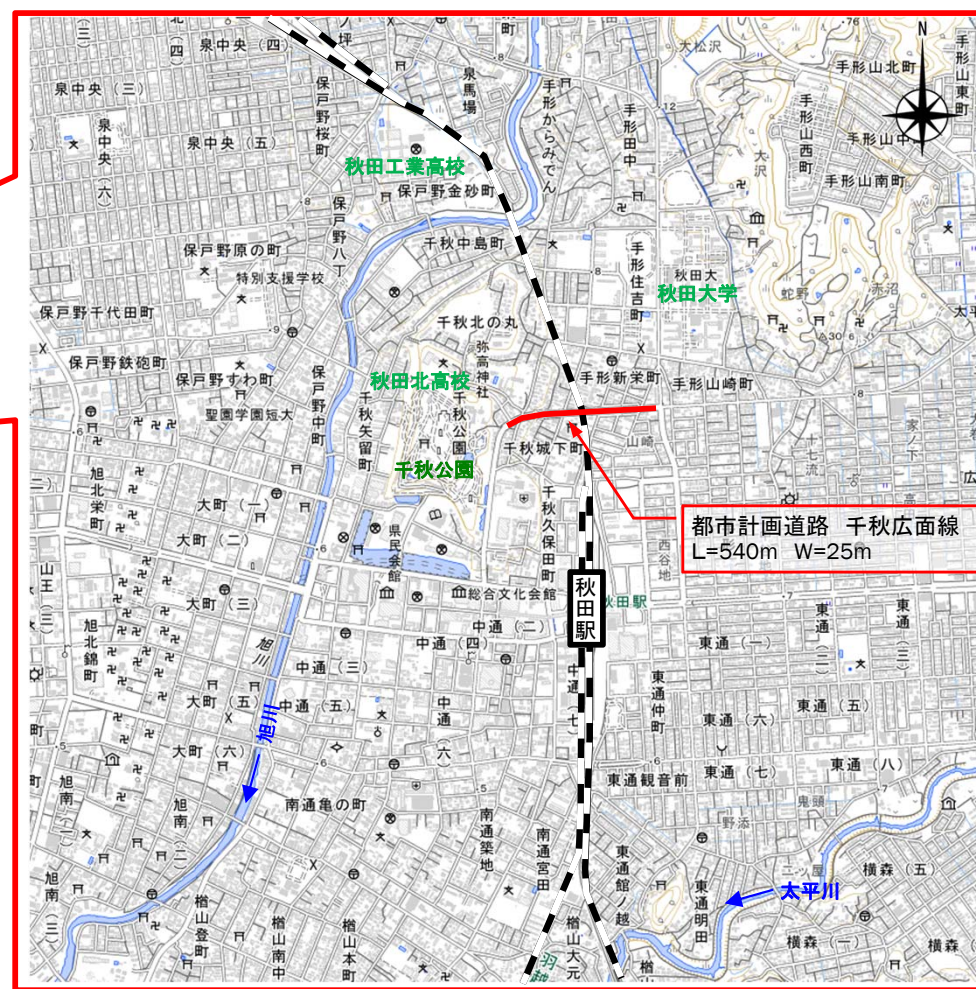


事業概要

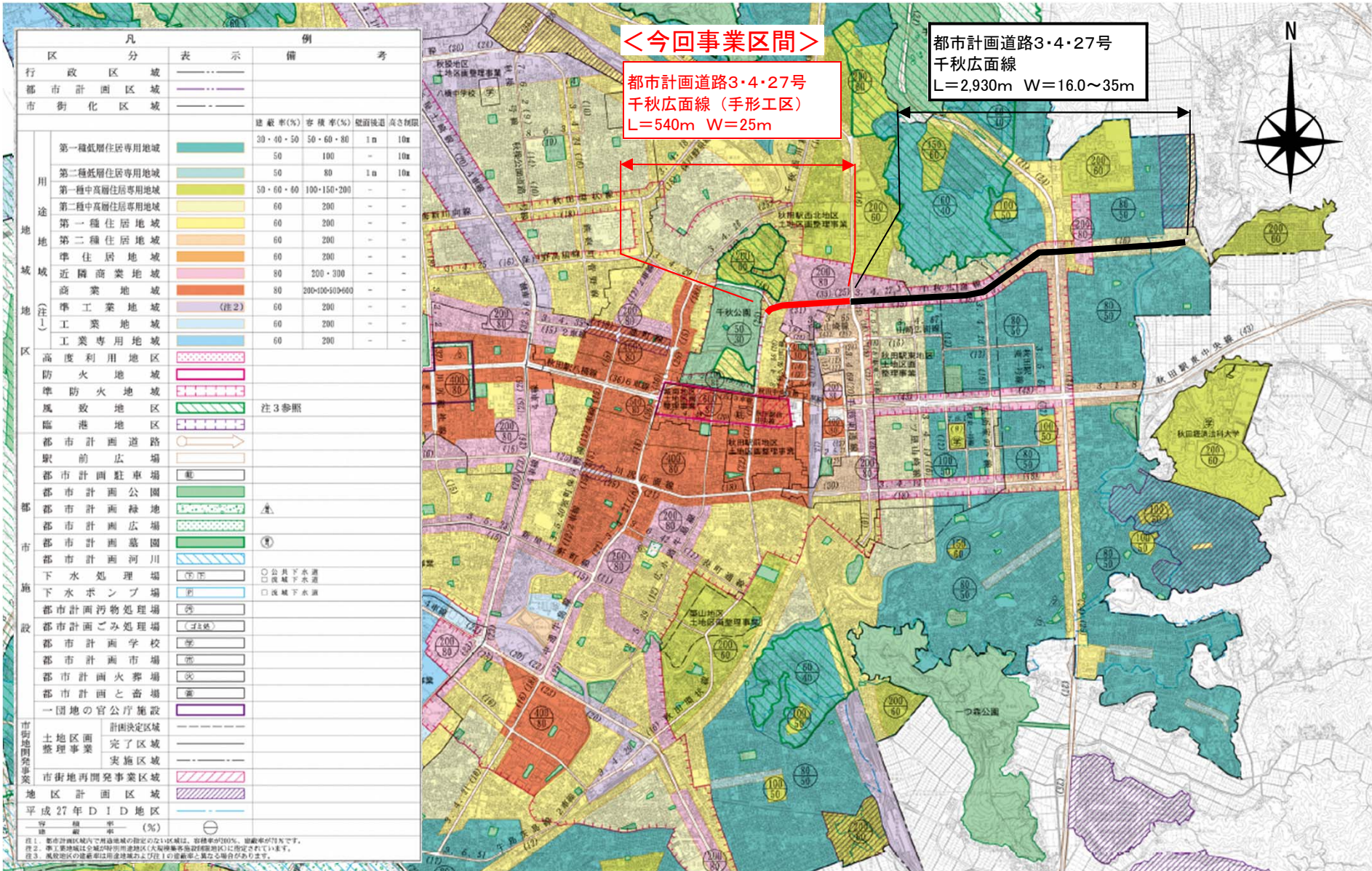
応募No.	2	
事業主体	秋田県	実施都市名 秋田県 秋田市
応募者名	秋田県建設部都市計画課	
ふりがな 事業名称	あきたとしけいかくどうろじぎょう 3・4・27号 せんしゅうひろおもてせん(てがたこうく) 秋田都市計画道路事業3・4・27号 千秋広面線(手形工区)	
事業概要 (400字以内)	【事業概要】 本路線は、秋田市の都心環状道路に位置付けられ、秋田県地域防災計画で第二次緊急輸送道路にも指定されている防災上重要な路線である。また、本事業区間は、JR奥羽本線により分断される中心市街地を東西に連絡する交通の要衝となっている。手形陸橋は昭和40年の完成後、約50年が経過し、老朽化が著しいことから、秋田県橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕のほか、防災・減災対策としての耐震補強も必要となっている。このため、交通渋滞の解消、秋田駅東西間の連携強化を目的とした4車線化の拡幅整備と併せ、既設橋部の既設桁補強や床版打換えによる質的改良及び耐震補強を実施することにより、橋梁全体の長寿命化を図るものである。 【整備効果】 (1)4車線化整備により、鉄道横断部での交通渋滞が解消 (2)両側歩道整備により、歩行者空間ネットワークの強化及び通学路の交通安全確保 (3)老朽化対策・耐震補強により、手形陸橋の長寿命化が実現	
事業規模	事業延長	L=540m(橋梁部 L=297m)
	幅員	W=25m
	事業期間	平成8年度～令和元年度
	事業費	C=6,862百万円

事業位置図

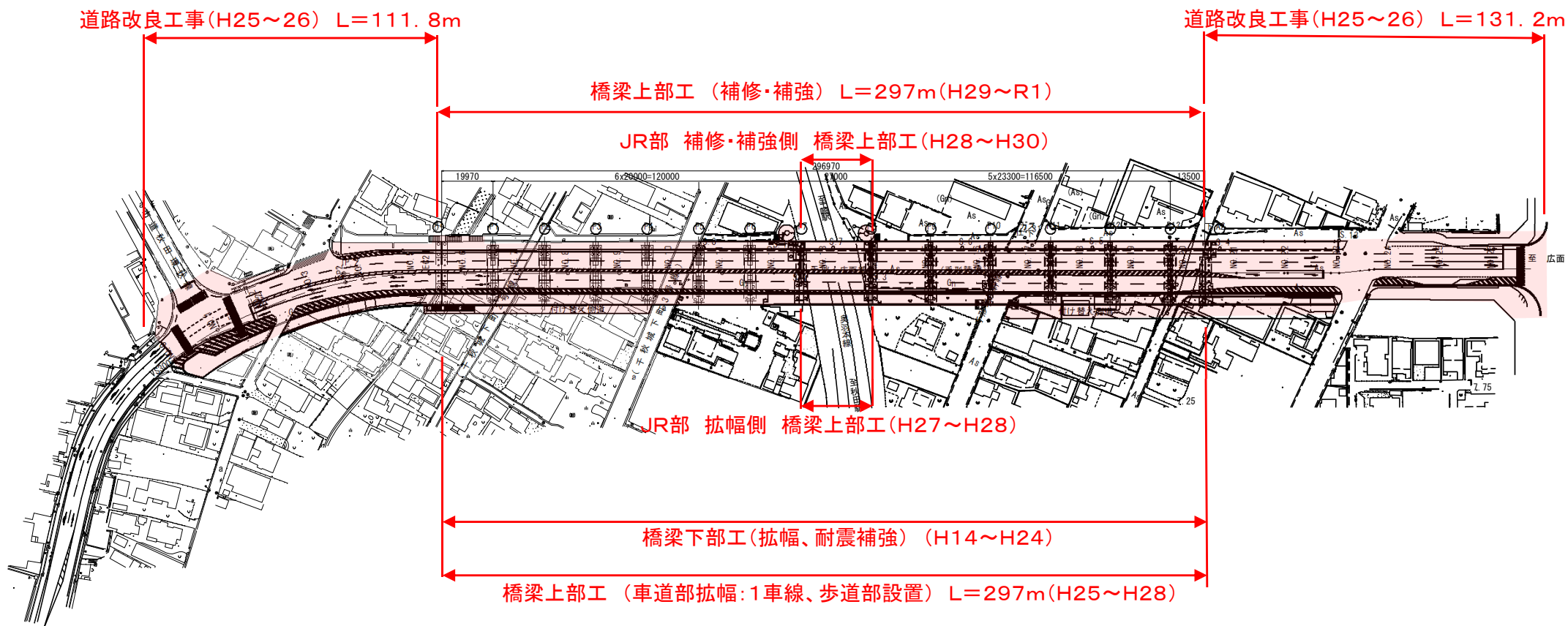


都市計画図(用途地域図)

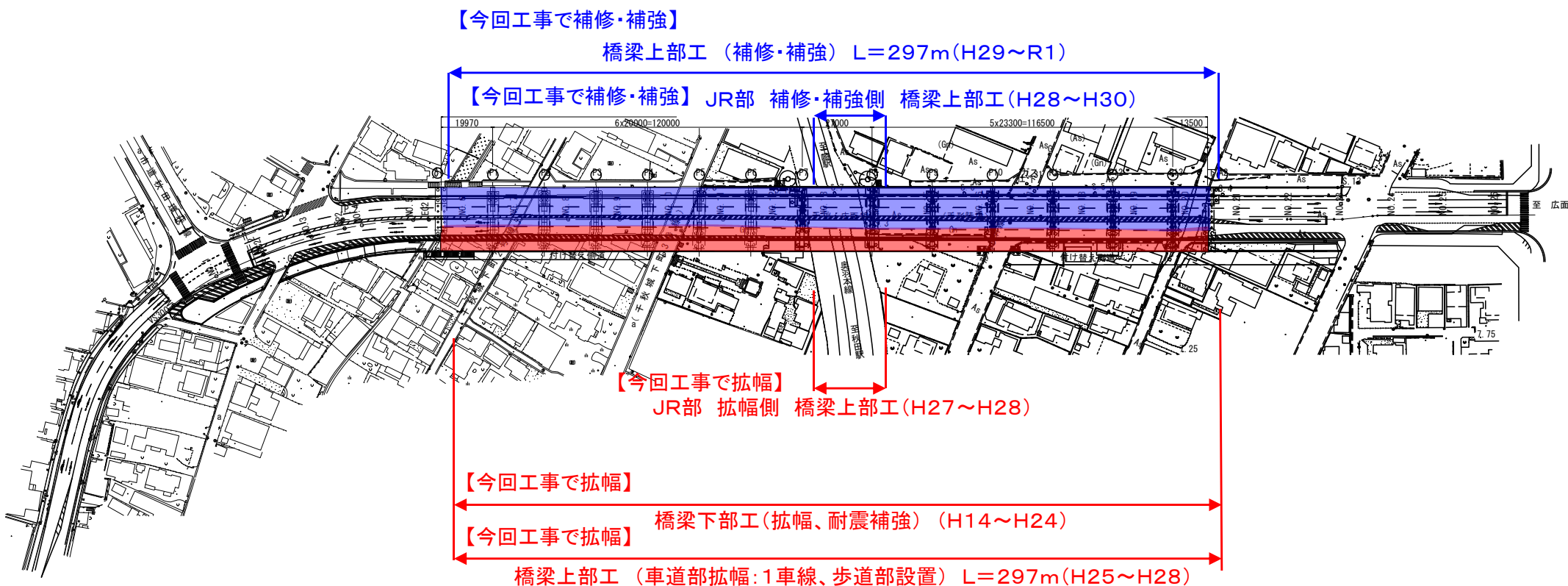
(千秋広面線 (手形工区))



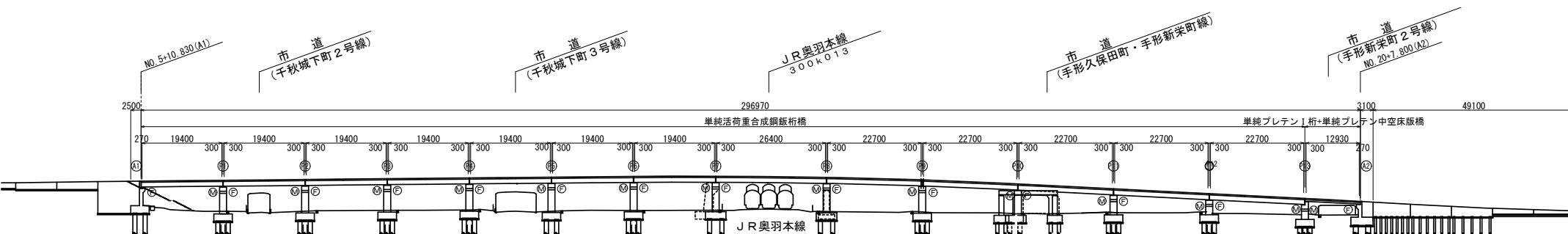
平面図



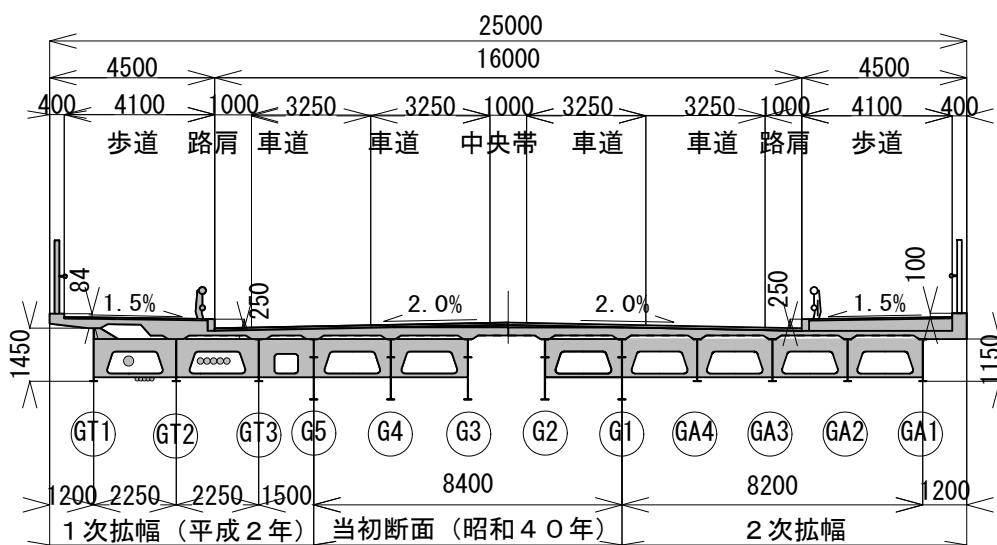
平面図(橋梁部のみ)



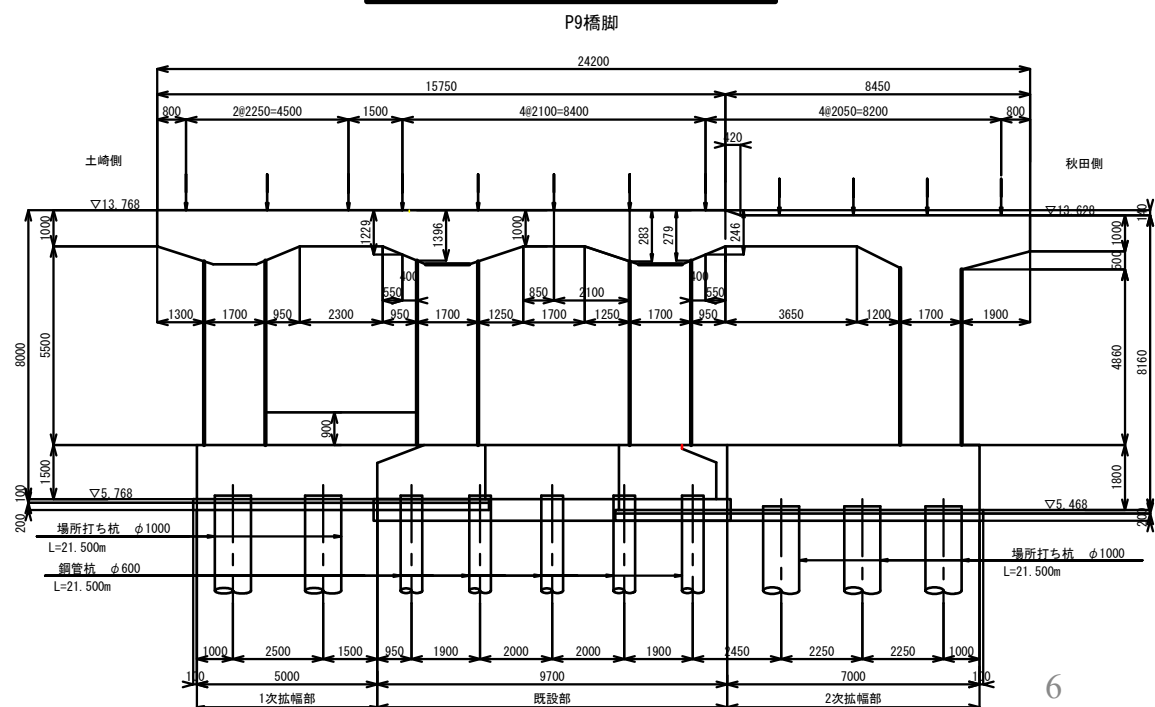
側面図



標準横断面(上部工)

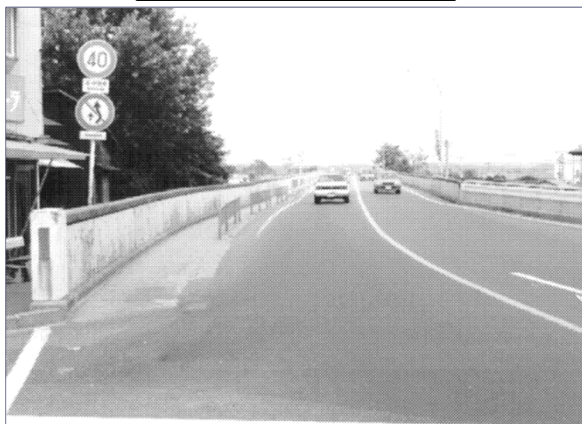


標準横断図(下部工)



横断図(道路整備の変遷)

当初供用(S40)



当初整備

昭和40年に2車線+歩道(片側)で供用開始

1次拡幅(H2)



前回整備

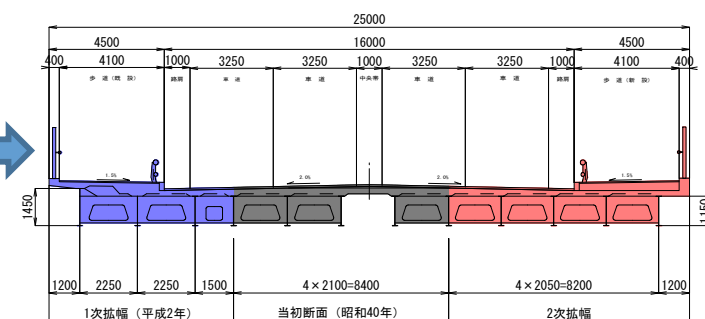
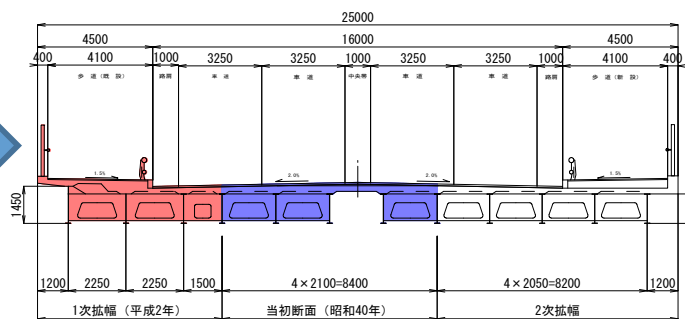
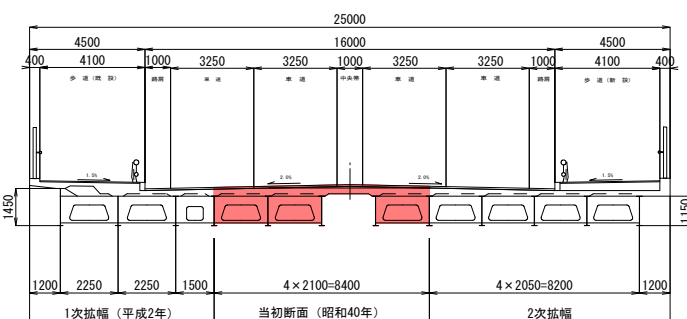
交通量の増加に伴い、既設橋梁(青色)を拡幅し平成2年に3車線+歩道(片側)とした。

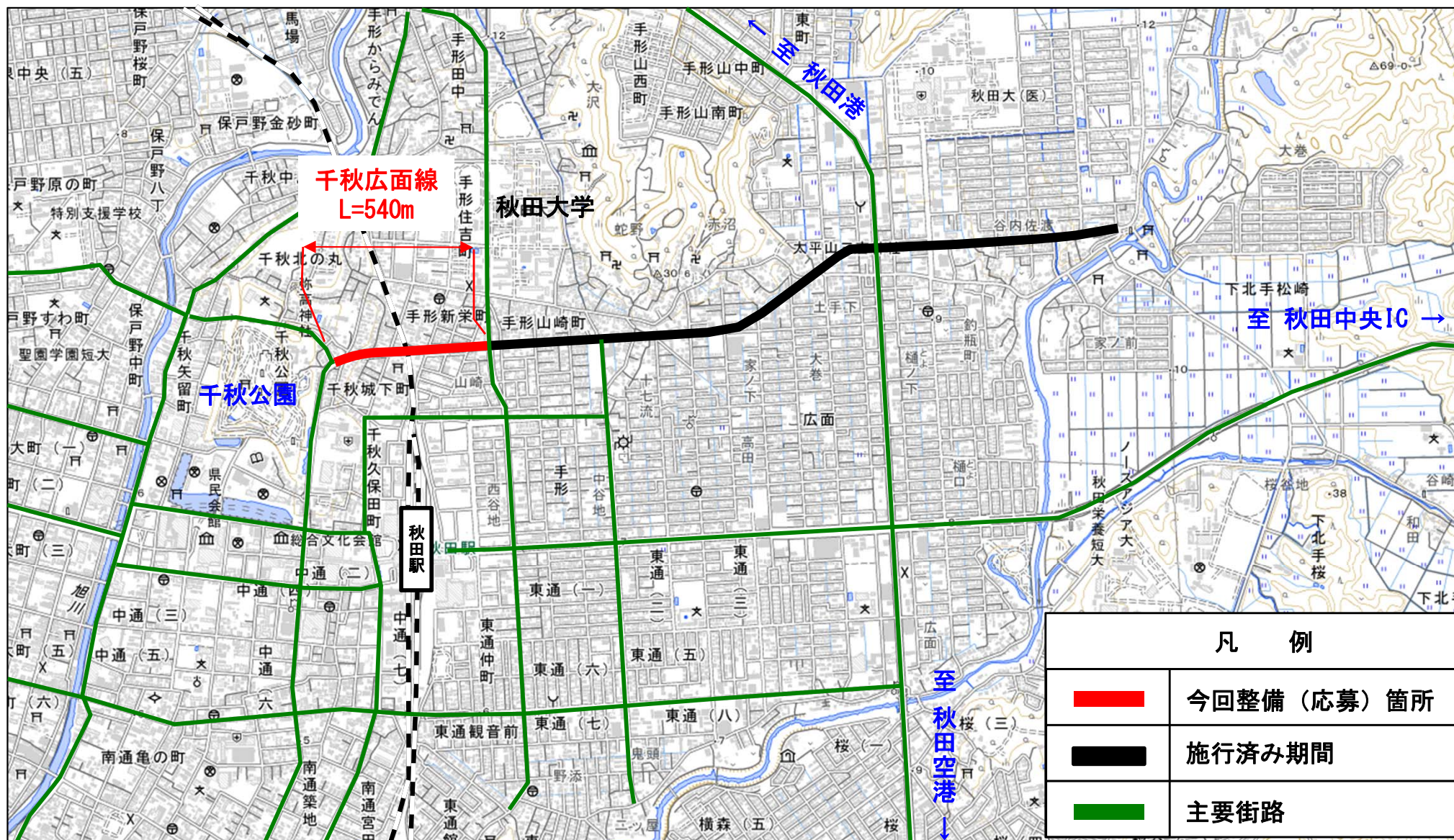
2次拡幅(R1)



今回整備

慢性的な渋滞解消を目的に、4車線化及び両側歩道とした。併せて、既設橋梁部(黒色、青色)についても補修・補強も実施し、橋梁の長寿命化を図った。





事業前写真



(千秋広面線 (手形工区))

事業後写真



令和2年9月撮影



令和2年9月撮影



令和2年9月撮影

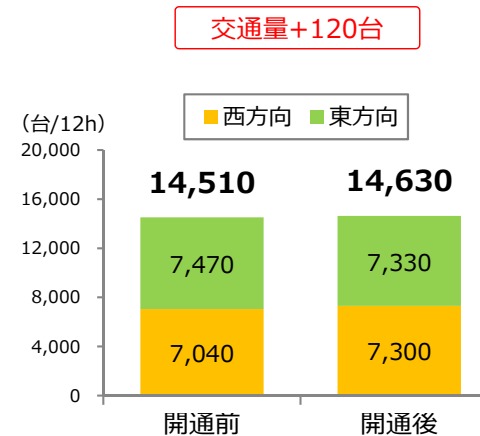
事業効果アピール資料

千秋広面線 (手形工区) が開通して
(令和元年11月17日開通)

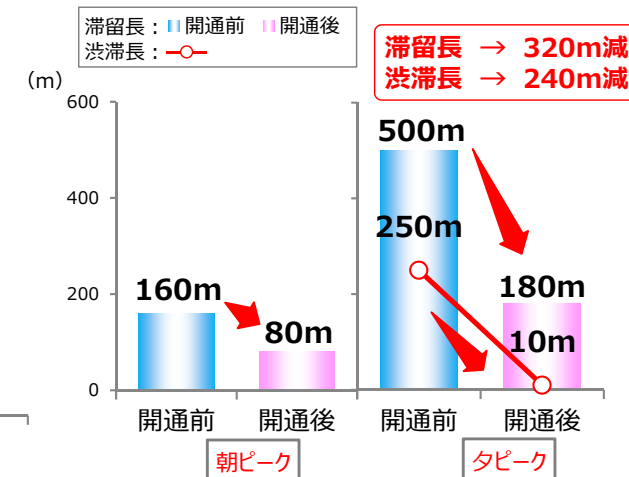
- 開通後の利用交通量は14,680台/12h (平日)
- 最大渋滞長は250mから0mへ
- 対象区間を通過する速度が最大で約7km/h向上



▼千秋城下町交差点～手形山崎町
交差点間の断面交通量の変化



▼手形山崎町交差点 (西流入方向)
の最大滞留長・渋滞長の変化

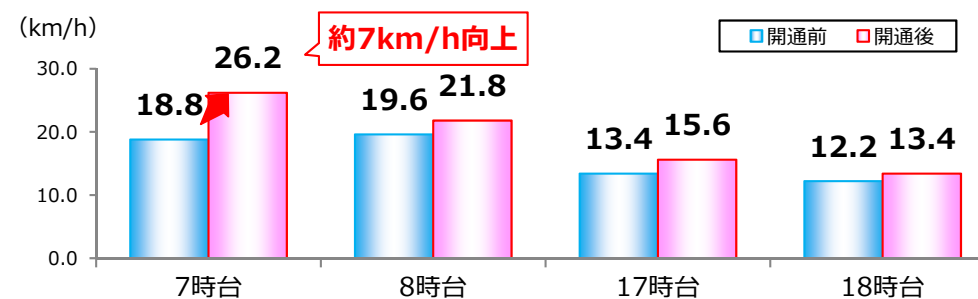


出典：秋田県建設部都市計画課調査結果 (開通前：R1.11.12、開通後：R1.11.26)

※滞留長とは、信号が「赤」から「青」に変わる瞬間の停止線から最後尾の車両までの距離

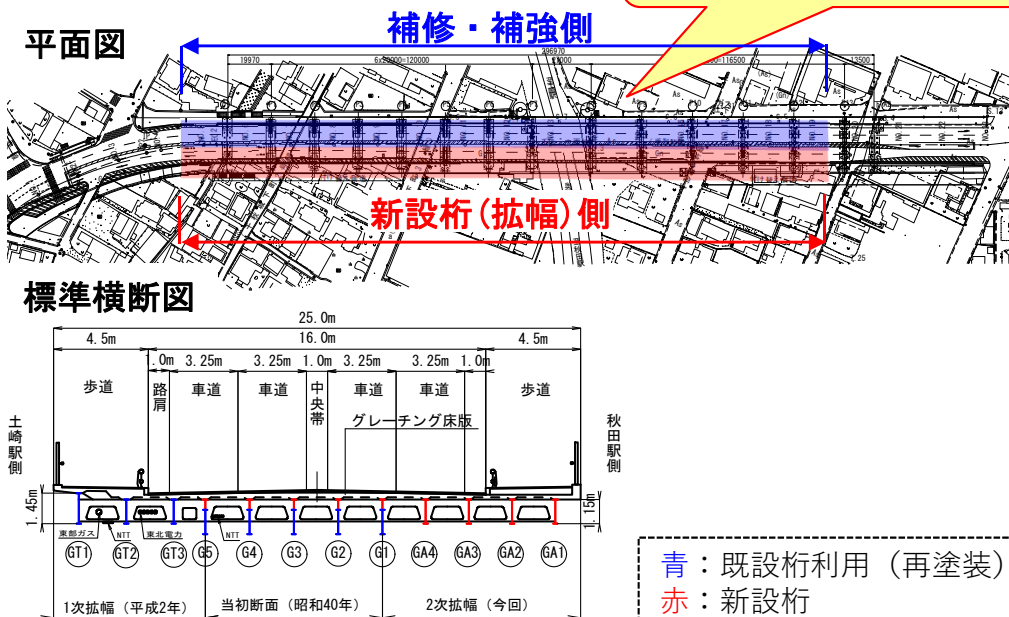
※渋滞長とは、滞留長で観測した車両がその青信号で抜け残った場合、停止線から滞留長で観測した車両までの距離

▼手形山崎町交差点 (西流入方向) の朝タピーク時旅行速度



出典：ETC2.0データ (開通前：H30.12月、開通後：R1.12月の平日平均)

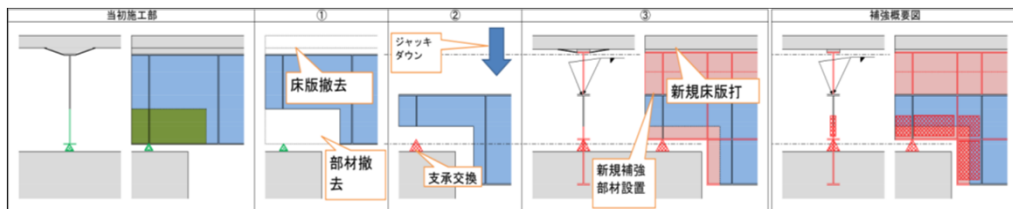
苦労や工夫等アピール資料



<補修内容>

○主桁補強

橋の設計荷重を「TL-20」→「B活荷重」にグレードアップするため、昭和40年に架設した当初断面の主桁補強が必要となった。補強方法は、桁を継ぎ足しウェブを高くすることで桁の剛性を高める工法を採用。補強桁の継ぎ足し位置は、下フランジ側は腐食が進行していたため、床版コンクリートに覆われ、比較的腐食の少ない上フランジ側に継ぎ足すこととした。



<施工手順>

- ① 騒音・振動を抑えるため、ブロック割りした床版をジャッキアップ工法により撤去
- ② 主桁端部を切断
- ③ 既設桁の上に補強桁を継ぎ足し
- ④ 主桁端部 (切りかき部) を補強
- ⑤ 主桁補強完了→支保交換→ジャッキアップ開始
- ⑥ ジャッキダウン完了
- ⑦ グレーティング床版架設
- ⑧ 床版完成

手形陸橋、4車線に 拡幅終え、きょうから供用



用地買収が計画通り進まず、南側の基礎が空の了したのは15年度。工事の遅れに伴って既存部分の老朽化が進行したため、橋桁に載せる

[illegible]

予定から17年遅れで

新刊「橘名版」は4種類
「手形左様」「奥羽本郷と
書いた小西隆一は「橘が本郷
した喜びを感じながら過す
た」と語った。佐良山主



手形陵橋の4車線化完成を祝い、テープカットが行われた。

コンクリート製の板「床版」を打ち直すなど修繕した。林田駅の東西を結ぶ道路は現在、手形隣境と明田地下道（1980年開通、市道）を経て、手形隣境の南約2500メートルの扇形緑をくぐる千秋山緑（市道）が年度内に着工の予定で、市は年内の開通を予定する。（左巻和道）

4車線化 供用スタート



4車線化の工事を終えた秋、見附岡線が17日、供用開始。田市の手形陸橋（県道秋田若

ていた。

千秋城下町と手形山福町を結ぶ手形陸橋は、JR秋田駅北側の奥羽線をまたぐ。県が進めてきた城橋・補修工事の区間は、前後の道路と台合わせ540m。両側に歩道を新設するなど、橋の幅を8mに余り広げて25mとした。

4車線化は2002年3月までに完了する予定だったが、用地買収が計画通り進まず、17年遅れて実現した。16日に現地で完成式が行われた。

（加藤慶一郎）

4車線化した手形陸橋

あきた
経済

JR秋田駅北側の奥羽線
4車線化され、17日午前5時
千秋城下町と同市手形山崎町
の要衝で、県が渋滞解消を目
こぎ着けた。3車線からの拡
れる。

手形陸橋 4車線で供用
渋滞解消へ17日から

経済活動活性化も期待



多手形陸境圍刃



4車線化される手形陸橋(10月22日、秋田市で)

第14862号(昭和41年5月17日)
 秋田建設工業新聞(建設科1年分2726回刊行)
 令和2年1月1日(水) (1)

日刊 秋田建設工業新聞

発行所
秋田建設工業新聞社
〒103-0025 秋田県山王六丁目8番42号
TEL 018-822-0110
編集部 063-4112 営業部 063-4113
経理部 063-4114 FAX 063-4311
omahenry@akks.co.jp
http://www.akks.co.jp

2020

第二部



皆様のご繁栄を
心よりお祈り申し上げます

皆様には日頃お引立てを賜り厚くお礼申し上げます。
秋田建設工業新聞社は建設産業界の情報紙として、
紙面充実、より早い情報発信に邁進すべく社員一同
研鑽努力を重ねて参る所存です。
本年も一層のご指導ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます。

令和2年度

關秋田建設工業新聞社

新年特集

- | | |
|------------------------|--------|
| ●新書インタビュー 赤羽一嘉国土交通大臣 | 2冊 |
| ●一匹狼の命と暮らしを守る防災・減災対策を | |
| ●年報読みだすつ | 3-8冊 |
| ●東北地方整備局長、東北農政局長ほか | |
| ●年報読みだすつ | 9-15冊 |
| ●一匹狼忠恕、秋田建設部長、農林水産部長ほか | |
| ●2020年展望-首長に聞く- | 16-30冊 |
| ●一田市市長、北村市長、小坂町長ほか | |
| ●動き方改革-3社の取り組みについて | 33-34冊 |
| ●経営層選定定款が企業向上を加速 | |